
株式会社フィスコ

2008年12月期 決算短信補足説明資料

2009年2月13日

当期の主な取り組み

2008年12月期におきましては、主な施策として下記を実施いたしました。

1. 提供サービスにおける取り組み

金融機関向け販売支援ツール「RASHINBAN(金融情報誌)」
(2008年4月サービス開始)

アジア中心の新興国市場を調査対象とするリアルタイム情報
「エマージング・マーケット・ウォッチ」 (2008年7月サービス開始)

概要: 各国の証券市場動向、場況、現地証券会社のコメント、現地経済と産業に関するニュース等

対象国: 中国、香港、インド、タイ、ベトナム、シンガポール、マレーシア、フィリピン、インドネシア、ブラジル、ロシア等

携帯電話向け株式・為替情報「フィスコモバイル」(2008年7月サービス開始)
株式投資に求められる銘柄選定、売買タイミング判定に有益な
投資判断支援ツール「銘柄カルテ」 (2008年8月サービス開始)

当期の主な取り組み

2. 組織再編

株式会社フィスコプレイスへの一部事業譲渡

- i. リサーチ部門のコンテンツ制作能力を最大限に活かすため、情報配信システムの再構築に着手
- ii. 法人と個人、ニーズの異なる顧客層に対応するコンテンツ開発及び販売体制に組織変更

目的: コンテンツの制作・品質管理体制、顧客ニーズに即応する販売体制の強化

リサーチアンドプライシングテクノロジー株式会社の持分法適用関連会社への変更

連結子会社 持分法適用関連会社

目的: 同社の人的資源の集中

TAKMAキャピタル株式会社の連結からの除外

連結子会社 持分法適用関連会社 除外(伊藤忠商事株式会社へ売却)

目的: 当社の経営資源の集中

当期の主な取り組み

3. 資産の厳格な評価の実施

< 厳格な評価の主な対象 >

関係会社株式(連結子会社2社 個別3社、持分法適用関連会社1社)

ソフトウェア等保有固定資産 (個人向けサービス事業関連)

投資有価証券

投資損失引当金、貸倒引当金

棚卸資産の長期在庫

目的: 抜本的な財務体質改善を実施し、世界的な厳しい経済状況下でも、収益力を高め、競争力、企画力を保持し、投資家や従業員をはじめ、利害関係者に寄与する優良企業を目指していくため。

連結損益計算書 主要項目(前年同期比)

(単位:百万円)

	2008年12月期 対売上比		2007年12月期 対売上比		増減	増減率
売上高	1,244	-	1,083	-	160	+14.9%
売上原価	439	35.3%	380	35.1%	58	+15.4%
売上総利益	804	64.7%	702	64.9%	102	+14.6%
販売管理費	952	76.6%	869	80.3%	83	+9.6%
営業利益	147	-11.9%	166	-15.4%	18	-
経常利益	236	-19.0%	196	-18.2%	39	-
当期純利益	613	-49.3%	76	-7.0%	536	-

連結損益計算書 主要項目増減要因（前年同期比）

1. セグメント別収益増減要因

情報サービス事業 + 30百万円(前年同期比:+3.2%)

< 主な増収要因 >

- .リアルタイムサービス + 30百万円(+5.9%)
 ・主要提供先へのパッケージ整備実施、契約内容改定を進める。
- .アウトソーシング + 25百万円(+13.6%)
 ・先物・オプション関連情報、為替情報の新規受注が好調。
- .フィスコプレイス社 + 23百万円(+191.1%)
 ・前期3Qより新規連結。当期より通期で寄与。

< 主な減収要因 >

- .ポータルサービス 14百万円(-27.5%)
 ・従量課金となる有料コンテンツサービスが減収傾向に。
- .クラブフィスコ(LaQoo + 含む) 21百万円(-13.1%)
 ・国内株式市場の低迷、新規公開企業数の減少等により、個人投資家の情報サービスに対する需要減少が進む。

連結損益計算書 主要項目増減要因（前年同期比）

コンサルティング事業 + 27百万円(前年同期比+54.9%)

< 主な増収要因 >

- ・TAKMAキャピタル社 + 29百万円(+119.3%)
- ・投信事業本格始動。(中間連結会計期間までの投信委託者報酬等を計上)
- ・「RASHINBAN(金融情報誌)」 + 4百万円(-)
- ・当期新規サービスが稼働開始。継続拡大に向けて営業推進中。

教育事業 + 102百万円(前年同期比:+136.4%)

< 主な増収要因 >

- ・シグマベイスキャピタル社 + 167百万円(-)
- ・前期3Qより新規連結。当期より通期で寄与。
- ・専門科部門、通信教育部門ともに過去最高を記録。(同社6月決算ベース)

< 主な減収要因 >

- ・社内教育研修・セミナー(当社) 28百万円(-79.4%)
- ・前期売上に貢献したスポット受注の高額案件が減少。

連結損益計算書 主要項目増減要因（前年同期比）

2. 主な減益要因

売上原価の増加 + 58百万円(前年同期比+15.4%)

- . TAKMAキャピタル社:投信事業本格稼動 + 20百万円
- . 連結子会社2社算入に伴う影響 + 46百万円
 - (フィスコプレイス社 + 23百万円)
 - (シグマベースキャピタル社 + 22百万円)

販売管理費の増加 + 83百万円(前期比+9.6%)

- . 連結子会社2社算入に伴う影響 + 127百万円
 - (フィスコプレイス社 + 119百万円)
 - (シグマベースキャピタル社 + 7百万円)

< 参考 >

フィスコ社	19百万円
TAKMAキャピタル社	37百万円

連結損益計算書 主要項目増減要因（前年同期比）

2. 主な減益要因

特別損失の計上 467百万円(前年同期比-)

・ 関係会社株式に対する評価減 (業績低迷による当初回収計画の遅れ)	
持分法による投資損失(NNA社)	241百万円
のれん減損損失(フィスコプレイス社)	51百万円
のれん減損損失(シグマ社)	14百万円
・ 保有固定資産の減損 (市況悪化に伴う個人向けサービス事業の低迷)	
フィスコ(ソフトウェア・器具及び備品)	78百万円
フィスコプレイス社(ソフトウェア)	14百万円
・ 投資有価証券評価損(時価下落による減損処理)	49百万円

連結貸借対照表 主要項目(前期末比)

科目	当期末 2008年12月31日		前期末 2007年12月31日		増減
	(百万円)	構成比	(百万円)	構成比	
(資産の部)					
流動資産	528	61.1%	1,240	58.4%	711
固定資産	336	38.9%	876	41.3%	539
1.有形固定資産	48	5.6%	100	4.7%	51
2.無形固定資産	18	2.1%	176	8.3%	158
3.投資その他の資産	269	31.2%	600	28.3%	330
繰延資産	0	-	6	0.3%	6
資産合計	864	100.0%	2,122	100.0%	1,257
(負債の部)					
流動負債	213	24.6%	220	10.4%	6
固定負債	186	21.6%	355	16.7%	169
負債合計	399	46.2%	575	27.1%	176
(純資産の部)					
資本金	748	86.5%	748	35.2%	0
資本剰余金	402	46.6%	402	19.0%	0
利益剰余金	626	72.5%	13	0.6%	613
自己株式	43	5.0%	43	2.0%	0
評価・換算差額等	16	1.8%	23	1.1%	7
少数株主持分	0	-	476	22.4%	476
純資産合計	465	53.8%	1,546	72.9%	1,081
負債純資産合計	864	100.0%	2,122	100.0%	1,257

連結貸借対照表 主要項目変動要因(前期末比)

1. 資産の部 主な変動要因

現預金	670百万円	
		・TAKMAキャピタル社連結除外(527百万円)
		・フィスコ、シグマベースキャピタル社借入金返済(180百万円)
有形固定資産	51百万円	
		・償却、ほかフィスコ器具及び備品につき減損損失(15百万円)
のれん	73百万円	
		・フィスコプレイス社のれん減損損失(51百万円)
		・シグマベースキャピタル社のれん減損損失(14百万円)
		・償却
ソフトウェア	85百万円	
		・フィスコ減損損失(63百万円)
		・フィナンシャルプラス社減損損失(13百万円)

連結貸借対照表 主要項目変動要因（前期末比）

2. 負債の部 主な変動要因

借入金返済(短期・長期) 180百万円

・フィスコ及びシグマベイスキャピタル社借入金返済

3. 純資産の部 主な変動要因

利益剰余金 613百万円

・当期純損失の計上

少数株主持分 476百万円

・TAKMAキャピタル社連結除外等